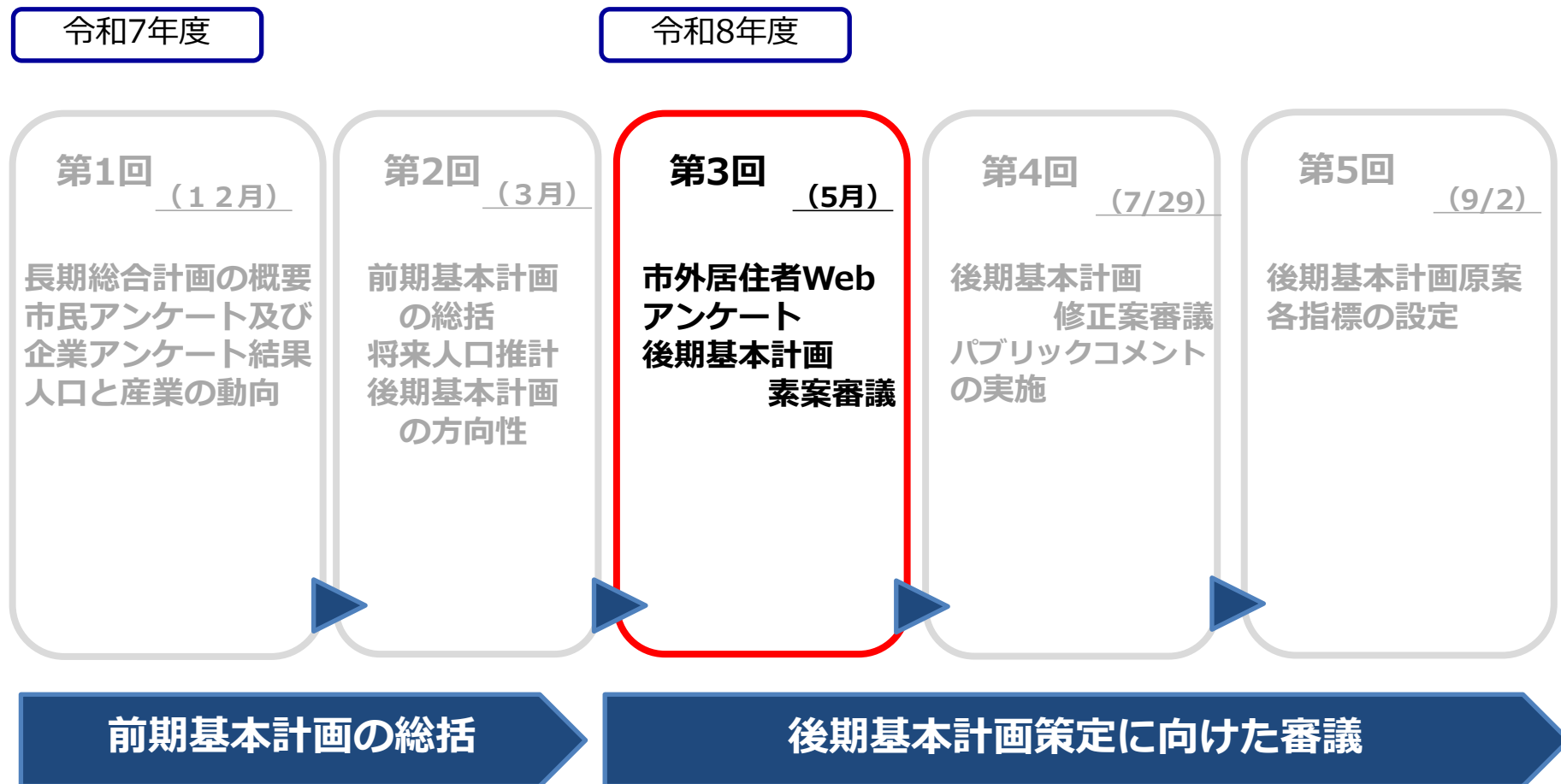


審議会の振り返り

1. 第3回審議会概要

第3回審議会の内容



第3回審議会概要

日 時：令和8年5月26日（火）
18時30分～20時30分

場 所：塩竈市役所 3階 北側委員会室

出席者：審議会委員 12名（欠席6名）

内 容：

塩竈市市外居住者Webアンケート

市外居住者の本市に対する認識や関心等の把握を目的とした
Webアンケート調査結果の報告

後期基本計画素案

前期基本計画の総括と審議会の意見を踏まえた後期基本計画の素案審議

2. 審議会からの意見

分野1（子ども）

- 児童福祉に言及した内容が少ない印象がある。
- 子育て世代への情報発信は市民に限定せず、市外居住者も塩竈を子育ての場と考えられるよう、ターゲットを狭めない表現としてはどうか。
- 子育ての大切さを知る体験学習は印象に残る重要な経験であり、この表現を大切にしてほしい。
- 塩竈市での子育て支援策が、仙台市の子育て支援策に対抗できるか不安を感じる。
- 学校再編を見据え、小中一貫校による9年間一貫教育で学力で負けない体制を作れば移住のきっかけになる。
- 学校給食に魚を使えばDHAによる食育の効果が期待でき、給食の充実は差別化になる。
- 子育て支援は幼児中心になりがちだが、最も費用がかかるのは中学生以降である。中学生から大学生に向けた支援も必要ではないか。
- 児童精神科について子どもの医療機関が不足しており、不登校や発達障害の診療が他地域頼みであることで、情報共有など連携が難しい現状がある。
- 児童が発達障害と診断される割合が上昇している。また、不登校も増加している。育児や家庭支援に不登校や虐待等を含め、子ども全般を誰一人取り残さないという表現にしてはどうか。
- 子ども家庭センターは設置に際して名称は自由であり、おさかなセンターや市民に広く公募するなど塩竈らしい名称を付けることで広がりができるのではないかと。

分野2（福祉）

- 包括支援センターでは貧困に悩む高齢者の相談が多い。
- 8050問題・引きこもり・精神疾患など、年金を頼りに暮らす家族が増加しており、家族背景も含めた認識と支援体制の拡充が求められる。
- 社会的弱者に対する支援体制について、行政の枠組みがあり、対象からこぼれ落ちる危険があるため、重層的な支援が必要となる。また、貧困は虐待の背景にもなるため、安心できる一連の相談体制が必要となる。
- 高齢者や精神疾患のある方のごみ出しが問題視されている。
- 元気な高齢者の活躍の場と合わせてボランティアだけでない支援の仕組みを検討してはどうか。
- 健康寿命や生活習慣病について、検診の受診率が低い。受診率向上のため数値目標の設定を検討して欲しい。
- 介護医療サービスの記述で認知症を多用しているが、病気の種類であることから、断定するのではなく、要介護高齢者や認知機能の低下などの表現としてはどうか。
- こころの健康について、特に8050問題等は、受診に至るハードルが高く、負のループに陥りやすい。孤独死など行政支援から外れる層への対応にかかる表現を前向きに検討してもらいたい。
- 社会的弱者を守る強さは地域への信頼につながる。また、守るだけでなく、守られた人にも活躍の機会を設け、町内会等を通じた新しい活動の場を作れるとよい。

分野3（生活）

- 物価高騰や物資不足など、社会経済状況を後期基本計画の全体に反映してはどうか。
- 古い空き家が、相続後の解体費用等の問題で放置される傾向がみられる。
- 空き家の修繕を行い、安く入居させるなど空き家対策の取組を検討してほしい。
- 地域交通は継続が難しい局面を迎えている。MaaSやデマンド交通など、地域特性・人口分布を踏まえた新たな交通体系の検討が必要であり、規制が障壁であるなら特区としての実施はどうか。

分野4（産業）

- 三陸塩竈ひがしものについて、前回の審議会が出た流通量への不安については、十分な数量が市場に出ているものの、流通量業者が限られているため、塩竈で水揚げされるメバチマグロ全体の20%となっている。
- 市内で開業希望者が増える一方、店舗として活用できる空き店舗が少ない。商業面での空き家の活用にも力を入れてほしい。
- ふるさと納税の人気返礼品が塩竈に直接水揚げのない魚種であり、塩竈らしい返礼品の開発が求められる。

分野5（交流）

- 市外居住者アンケート結果では、30代の「ぜひ住みたい」の数値が0であった。地価の関係で塩竈に住みたいという声は多く聞こえており、この結果に疑問を感じる。
- 移住促進の専門部署を設置すべきであり、行政が難しければ民間に委託は出来ないか。また、トライアルステイや費用助成等のインセンティブも検討していただきたい。
- 町内会域で空き家をリフォームした民泊が6月オープン予定で、現在、県外・海外からも予約が入るなどニーズがある。
- 観光物産館を造成し、名産品・水産加工品の販売スペースを設けてはどうか。ただし、施設単体で完結せず、周辺への波及効果まで踏み込んだ仕組みも検討した方がいい。
- ふるさと納税を増やす目的のPRにとどまらずに、塩竈を広報するために、市のPR資料の送付など、シティプロモーションの手法に工夫が必要である。
- 体験コンテンツは充実するだけでなく、同様に発信することも力を入れてほしい。
- 笑顔でのおもてなしについて、ホスピタリティ向上に向けて、おもてなしマイスター制度や認定事業所、連絡協議会を立ち上げ、事例研究や視察を行い、行政がバックアップを行う仕組みづくりができると良い。
- 移住先となる空き家のゾーニングは、地域の選択と集中を行い、統廃合の少ない中学校区の地域にある空き家に集中させると良いのではないかと。
- 移住に関する助成金の拡充と補助の仕組みを工夫していただきたい。その際は、定住と財政負担の平準化をする方が良い。

分野6（文化）

- ・ 門前町の石碑が古く苔むして読みにくい。文字を白く塗るなど工夫してほしい。

分野7（協働）

- ・ 東西南北、浦戸の5地区町内会連絡協議会内での意見で町内会の会長のなり手が少なく、輪番制を実施する町内会では長期運営が困難となっている。市の補助や新たな体制への見直しの協力などが必要ではないか。
- ・ 災害時には地域コミュニティが重要となるため、町内会等の組織は重要である。
- ・ 空き家対策に取り組むNPO法人が町内会を回り、空き家に関する相談を受け付けている。
- ・ NPOとの連携は、ごみ出しの問題や観光物産館の管理・着地型観光ツアー造成などの事業成立につながる。駐車場事業×イベントNPOなど「現代版百姓」を構築できるとよい。
- ・ 良いコンテンツや資源の磨き上げを、NPOとの連携の中でできるとよい。
- ・ 計画中の「協働」の表記が「協同」でよいか確認してほしい。

分野8（浦戸諸島）

- 浦戸で漁業型クラインガルテン（家庭菜園付きの小屋）など、世界初の地域ブランディングを提案したい。法の規制問題があればタイヤ式リアカー等が考えられ、大胆な発想を検討できるとよい。
- 人が住める松島湾に浮かぶ島は塩竈の宝である。浦戸諸島内の医療・福祉の充実の前に、島内の小売店・物販店がないことが問題ではないか。浦戸での生活をうたうなら商店などにも注目することで、特別名勝松島の法規制下でも居住を呼び込めるきっかけとなる。
- 法規制の問題でハード面の制約があると考えられるため、NPOなどの協力を得て、ソフト面の充実を図るべきである。A Iや機械にはない、人の共感する力を大切にほしい。
- 浦戸諸島・寒風沢の魅力をテレビで紹介された。情報発信にも注力してほしい。